

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	環境因子とエピゲノム記憶による生活習慣病発症の解明
研究代表者	酒井 寿郎 (東京大学・先端科学技術研究センター・教授) ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、肥満・生活習慣病の発病を環境・栄養変化によるエピジェネティックな遺伝子制御の結果として捉え、その本態を明らかにして新規の生活習慣病治療の開発を目指す研究である。応募者らが同定したヒストンメチル化・脱メチル化酵素であるJMJD1A (Jumonji domain-containing 1a) とSETB1の制御に焦点を当て、酵素のリン酸化からクロマチン構造変化への過程に迫る独自性の高い研究である。応募者らは脂質代謝・インスリン抵抗性について優れた研究実績を有し、本研究においても確実な研究の進展が予想される。患者数の多い生活習慣病の治療に新しい切り口を開く研究となることが期待され、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>